

## 受注・生産管理を効率化

漬物製造の遠藤食品（栃木県田沼町、遠藤栄社長）は食品メーカーなどを対象に、受注・生産管理システムを外販する。二〇〇三年九月、システム事業を専門に手がける新会社「エンドウ」を設立。システム開発のアクリート（宇都宮市、藤田恵美社長）と協力し、顧客企業の注文に応じたシステムを提供する。一年目は年間一億円の売り上げを目指す。



管理システムの導入で、遠藤食品では残業時間が半減したという。

遠藤食品は二〇〇〇年四月から、独自に開発した管理システムを取り入れている。取引先からの電話を受けると、購買履歴や商品単価が即座に表示され、問い合わせなどに迅速に対応できる仕組み。受注情報を入力すれば在庫や出荷の状況にも反映されるため、業務を一括管理できる。同システムによる一元的な業務管理で、作業の

## 新会社で顧客対応

# 遠藤食品 システム外販

## 宇都宮商議所



宇都宮商工会議所は来年春、食品の統一ブランド商品「宇都宮雷都（らいと）物語」シリーズの姉妹シリーズとなる「宇都宮スーパー雷都物語」（仮称）を投入する。

## 名産食品に新シリーズ

## 「スーパー雷都物語」素材などに高級感

新商品は、素材や製造方法などに徹底的にこだわった高級食品とする。雷都物語発売十周年を契機、関連協議会参加企業が製に、新シリーズで消費者への関心を喚起したい考え。今月下旬から商品開発を希望するメーカーを一社公募、来年一月ごろまで応募を受け付ける。小三社。当初は好調だったが、消費不振や競合商社で商品内容を審査し、合格した商品には、少額増をたどってきた。

新会社エンドウの社長は、遠藤食品の遠藤栄一専務が兼務する。遠藤食品で使用している管理システムをもとに、アクリートが顧客企業の要望に沿い、企業の事業内容や規模にも合わせたシステムを構築する。システムの導入費用は企業ごとに異なるが、一件当たり平均で一千万円程度としている。エンドウの遠藤栄一社長は「一年目に一定の実績を上げたら、積極的に全国展開をしていきたい考えだ。遠藤食品は一九七三年五月の設立。〇三年四月の売上高は約三十億円。

## 首都圏経済

〈支局電話番号〉	
宇都宮	028-622-1745
前橋	027-223-3111
水戸	029-221-3283
つくば	029-852-0345

## 列島フラッシュ

**新潟** 新潟市漆器同業組合は新キャラクター「ヌリドン」を作製、16日までお披露目イベントを開催中。新潟漆器は江戸時代から伝わる伝統工芸で「変塗（かわりぬり）」と呼ばれる多彩な塗りの技法が特徴。3月に国の伝統的工芸品に指定されたが、認知度はいまだ一つで知名度向上を望む。

**長野** 長野市は市内の分権に関する庁内検討チームの中間報告をまとめた。市内7カ所に「地域総合事務所」を設け、市の予算・権限を移譲して地域により密着した行政サービスを展開することが柱。住民への説明や意見募集を経て2005年度から段階的に実施していく。

**石川** 県の代表的産元（繊維商社）の岸商事（金沢市）は製造と販売を再編する。織物の製造部門は3工場から1工場に集約。高付加価値品の生産力を維持したまま製造効率を高める。販売面では東京で自社ブランド衣料品の直接販売に乗り出す。

**大阪** 京阪電気鉄道と子会社の京阪カード（大阪市）は京都銀行と組み、京阪の主要駅に現金自動預け払い機（ATM）を設置する。2004年4月に京橋駅など約10駅に設置。その後は約20駅に拡大する。ATMには独自のブランド名を付ける。1日平均で1台100～150件の利用を見込む。

**広島** 広島経済同友会は12月1日から14日まで観光キャンペーンを展開する。広島駅、県立美術館などを回遊する無料バスを運行し、ホテルやレストランなどの料金割引も実施する。行政や経済界は観光入り込み客を1500万人にまで引き上げる計画を検討しており、同友会がまず具体化に動く。

**高知** 高知工科大学（土佐山田町）は利便性の高い高知市内のインキュベーター（IC）「よきこいビジネスプラザ」内にサテライトキャンパスを開設する。来年4月からテレビ会議システムで大学院起業家コースが受講可能になる。これに先立って意見交換による講演会を平日夜に始めた。

ICタグで魚の養殖情報提供へ  
岡山は養殖魚にICタグ